

南の風

- ・巻頭言
- ・学習のあしあと・その2
- ・10月の予定



そのあいさつ、気に入った

校長 若狭 陽一

当校の子どもたちのあいさつで、私がとても気に入った姿があります。それは、一部の子どもたちが、自教室から別教室への学習に向かう時に、表れます。



行ってきます

行ってらっしゃい



これだけのあいさつの交わり合いですが、子どもたちの温かな関係性が垣間見れて、見かけた私まで温かな気持ちになってきます。

私も、できる限り、毎朝、校門で子どもたちとあいさつを交わしています。朝のあいさつは、私の一日の仕事の中で、かなり優先すべきものだと思っています。では、どうして私（校長）はあいさつをするのでしょうか。大きく次の3つの理由があります。

- 子どもたちと良好な人間関係をつくりたいと思うから
 - 子どもからのお返しのあいさつを求め、「承認欲求」（※下図参照）を満たそうと思うから
 - 単純に、大きな声を出すことで気持ちがよくなり、自分を鼓舞することができるから
- そして、あいさつを返してくれる子どもがいると私（校長）はとても嬉しい気持ちになります。先に述べたとおり、私（校長）には、「認められたい」と願う「承認欲求」があり、その欲求が満たされるからです。

上記の主語「私（校長）」を、「友達」や「保護者」、「登校時に見守ってくれる地域の方」に置き換えてみてください。おそらく、みなさんも同じ気持ちなのではないかと思います。

最近、私は、「あいさつは朝の校門だけではもったいない」と思うようになりました。先に述べた「気に入った姿」から、当校の子どもたちは打てば響くと思ったからです。私も気に入ったあいさつを真似て、多用するようにします。例えば、自教室から出て別教室に向かっている子どもに出会ったときは「行ってらっしゃい」、自教室に入ろうとしている子どもに出会ったときは「お帰りなさい」、「いらっしゃい」という具合です。

今月も、3、4年生の子どもたちが、あいさつ運動で全校を盛り上げてくれました。お互いの気持ちを理解し合いながら、あいさつが自然と交わされる五泉南小学校を目指します。

参考：マズローの欲求の5段階

※アメリカの心理学者マズローは、人間の欲求は、下位の欲求が満たされると上位へ上がっていくと唱えました。

